～ ロータリー創立記念日に因んで ～

ロータリーは宗教か

◇はじめに　～月信投稿にあたって～

ガバナー月信 vol. 8（2013 年 2 月）「第 41 回ロータリー研究会に参加して」を読んで慄然としたものを感じたのは私だけでしょうか。最近は、地区協議会やＩＭに参加してもＲＩの方針の伝達、とくに財団がらみのお話が多く、ガバナー月信 vol. 8 でも現在のＲＩの方向性に対する研究会出席者の危機感が伝わってきました。

ロータリーは何処へいってしまったのでしょうか、ロータリーは何処にいくのでしょうか。日本のロータリーは、職業奉仕などロータリー草創期の理念を大切することで会員を維持増強してきた歴史があります。もちろん日本のロータリーが世界のロータリーのすう勢から取り残されることは不本意ではありますが、ここでもう一度ＲＩの方針は尊重しながら、あえて日本のロータリーとして‘ガラパゴス化’するのはどうでしょうか。新入会員は、『ロータリーって何？』と戸惑っています。それはロータリーに色が無くなってきたからではないでしょうか。

ロータリーはキリスト教プロテスタントの思想、プロテスタンティズムが色濃く反映しているといわれていますが、ポール・ハリスは自著（「ロータリーの理想と友愛」1980 年再版）で、『ロータリーは宗教ではない』といっています。また、ハーバート・テーラーも「四つのテスト」を、“いかなる宗教の教義にも反しないこと”を確認して提唱しました。

ロータリー創立記念日に因んでポール・ハリスがいう“ロータリーは宗教ではない”ということをふまえ、会員に興味を持ってもらうために、あえて「ロータリーは宗教か」と、逆説的な演題をつけ卓話を行いました。内容はやや強引に過ぎると思いますが、話題提供になれば幸いです。

◇ロータリーの誕生　～童心に返れ～

ロータリーの創立は、1905 年 2 月 23 日でポール・ハリス(弁護士)によって、ガスターバス・ローア(鉱山技師)、ハイラム・ショーレー(洋服商)、シルベスター・シール（石炭商）と共にシカゴで行われました。きっかけは都会生活の孤独感から、少年時代の村人たちの友情と相互扶助の気持ちを懐かしみ、他の３人と意気投合して会合を持ったのが始まりです。互いの事業所を巡回して会合することから「ロータリー」と命名されました。

始まりは互いの親交と職業上の利益「互恵主義」でしたが、数年後(1907 年)、互恵主義から転換して“ 社会へ寄与 ”しようと、シカゴの市役所に公衆便所(写真１)を寄贈、これがロータリークラブの社会奉仕の始まりだといわれています。

私が入会した頃はよく“童心に返れ”という言葉を耳にし、これはポール・ハリスのロータリー創立時の精神を表す「邪気のない子どもの心」を大切に、友情・親睦を深め、ロータリーの活動に生かすことが勧められたからだと思います。私の最も好きな言葉のうちの一つです。

余談ですが、ライオンズの誕生は1917年、テキサス州ダラスＲＣのジョーンズ会員が脱会して創立しました。経済活動を活発に多くの資金で社会奉仕を行う、精神面より経済面を先行して活動したため、ロータリークラブの“Ｉ Serve”に対し、“ We Serve ”といわれる所以です。では、ロータリーの精神とは何でしょう。

◇ロータリーの精神　～人間の心の普遍性「利己」と「利他」～

ロータリーには、１９２３年に‘ロータリーの奉仕哲学’と定義され、１９５０年に公式標語となった“Service above Self ”『超我の奉仕』と、ロータリーの綱領から和訳した“ Ideal of Service ”『奉仕の理想（理念)』があります。これは二つとも同義語で**「他人(ひと)のためになろうとする気持ち」**を表した言葉です。ロータリーは己を利する気持ち「利己」と他を利する気持ち「利他」のせめぎ合いで、「他」を優先する気持ちといわれていますが、では、この気持ちはロータリーだけのものでしょうか。

私は 2000 年 8 月に道元禅師(1250 年)が開祖である永平寺に行く機会がありました。丁度同師の 750 回大遠忌が終わったばかりで“ 道元禅師からのメッセージ ”を手に入れることができました。その中に『 **仏心のめざめ**』(度衆生心：どしゅじょうしん）というメッセージがあり次のようにいっています。

「仏心とは、自分のことはさておいても、世のため人のためにつくそうという心に他なりません、自分を中心とするから苦しむのです、仏心にめざめれば、苦労も生き甲斐に変わるのです。」というものです。

ポールと 650 年の開きがありますが、まったく同じことをいっています。また、ポールは彼の著書の中で「ロ

ータリーは宗教ではない、人種、宗教が違ってもロータリアンとして一同に会し、例会を持つ」ともいっています。はたしてロータリーは宗教と無縁なのでしょうか。ロータリーの根幹を成す職業奉仕から考えてみます。

◇職業奉仕　Vocational　Service　～天職と隣人愛～

vocational はラテン語の vocare（呼ぶ）から派生した言葉で、英語では voice になります。Voice「声」は、‘神からこれをしなさいというお呼び’で、‘神の声’です。したがって、キリスト教では、職業は神から使命を与えられた仕事、『天職』ということになります。天職を全うすること、そして隣人愛の実践こそが神の御心に沿い、修業にもつながると考えられています。そこでロータリーの二つの標語をみてみます。

（1）「最も良く奉仕するもの最も多く報われる」

一つは、１９２３年‘実践理論の原理’と定義され、１９５０年に公式標語となった“ They(He) profit(s) most who serve(s) best.”**「最もよく奉仕するもの最も多く報われる」**です。2004 年に女性会員も考え He から They に変わりましたが、この日本語訳は分かるような、分からないような文章です。そこで、キリスト教の『隣人愛』の教えを重ねてみます。

隣人愛は「他人(ひと)のためになろうとする気持ち」です。みんなが喜ぶ商品やサービスを提供することが隣人愛につながるわけですが、本当にみんなが喜んでいるかを確かめるために市場に評価を委ね、買い求める人が多ければ“隣人愛の証明”になると考えます。当然、“利潤”も上がり、天職という考えも相まってもっと隣人愛を発揮したい、つまりもっと“利潤”を上げようと働きますので、結果としてさらに“利潤”があがることになります。

「“儲け”を意図しないにもかかわらず“儲け”を追及する」、これこそ資本主義の始まりであるといわれていますが、ここで宗教から離れ、平たく言えば、『儲かることを目的とせず、商道徳・倫理を守ってビジネスを行えば結果として儲かります』という、これがこの標語の意味するところではないかと思います。

（2）「四つのテスト」

これと相通じるのが、ハーバート・テーラーが倒産の危機を救った“ The Four-way Test　四つのテスト ”です。四つで一つという考えで test が単数形になっていますが、その意味は『他人が求める商品やサービスを事実に則って公正に販売すれば顧客が増え、利潤が上がる』ということになります。

逸話の一つとして「世界で最も優秀な調理器具」と社員がパンフレットを持ってきたとき、「最も優秀」は事実か、証明できなければ四つのテストに反すると削除し、また“公正に”は誰に対しても同じ価格で販売する(定価販売)ということなどを徹底し、顧客を増やし利潤を上げ、会社を立て直したということです。この標語はテーラーによって如何なる宗教の教義にも反しないことが確認されています。

一方、日本にも近江商人(1750 年頃)が家訓として使った、ロータリーの二つの標語と同じ意味あいをもつ、**“三方よし”**「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」という言葉が残っています。

（3）普遍的な心「利他」

ポールはプロテスタント、道元禅師は曹洞宗、近江商人は宗教とはとくに関係のない商人です。時代や宗教は違ってもその言わんとするところは不思議と一致してしまうのは、ロータリーは宗教ではないという証しで、いずれの“教え”も『利他』という人間の普遍的な心を説いているといえます。

そこで現在の職業奉仕の理念をみてみますと、今まで述べてきたことが現代に結実し、経営者としての心構えが明確に表現されているのがわかります。

◇現在のロータリークラブ　～ ロータリーの特色　職業奉仕について ～

ロータリーの特色であります職業奉仕について、創立以来の理念が時代を経て、次のように人生哲学としての職業奉仕が簡潔にそして明確に表わされています。

＜会員の特色と理念＞

(a) 企業経営者、専門職といった職業人の集まり。
(b) それぞれの職業を代表して入会。
(c) 会員はその職業において高い見識と業績を積み重ねた人。
(d) 互いに切磋琢磨し、自らの人格と職業倫理の向上に努める。

＜ 理念と実践‘人生哲学としての職業奉仕’＞

(a) 自らの企業の倫理性を高める。
(b) 従業員やその家族に対する責任や社会に対する責任を果す。

(c) 倫理にかなった事業を営むことが顧客の満足と感謝を生み、企業の信用性を高める。
(d) 結果として自己の企業の安定的かつ永続的な利潤を確保。

◇ロータリーの奉仕活動とボランティア団体の活動

次に、新しい会員からよく尋ねられることに、「他のボランティア団体とどこが違うの、ボランティア活動をもっとやってもよいのでは？」といわれます。もちろん創立２年後に公衆便所という寄付行為をしたように、職業奉仕と同様に社会奉仕も平行して積極的に取り組んでいます。

ここで一般的なボランティア団体との比較をしてみます。

	ロータリークラブ	ボランティア団体
態　様 （あり方）	・奉仕する個人の集まり ・事業主あるいは経営者に準ずる者 ・精神性・理念性を一義的に活動 　ロータリーの精神を学び、自分を高め、実生活（実業など）に活かす ・職業奉仕が主体	・主に個人より団体的に奉仕活動を行う ・会員の制約はなく、志のある人なら誰でも
目　的	・奉仕活動で学んだことを実生活に活かすことを推奨 ・しかし、実際の奉仕活動はボランティア団体と相違ない	・社会への奉仕活動そのものが目的
対　象	・実業・家族も含め実生活に関わるすべての人々 ・世界も含め社会全般の人たちや事柄	・社会のすべての人々や事柄 ・主に地域社会や国内

このように、一般的なボランティア団体と社会奉仕に関しては相違があるとは思いませんが、ロータリーの特徴は「職業奉仕」という概念と、ロータリーで学んだ“奉仕の理念”を実生活や社会に活かすことが求められていることです。

ただ、最近の傾向として、ロータリー財団が世界の社会奉仕のニーズを取り上げ、会員は財政面から支えることを奨励され、どうしても財団がらみ、経済的な奉仕活動となりがちで、ロータリーがよって立つ『職業奉仕』や『社会奉仕』があまり耳にされなくなり、ロータリーの特色、‘色’が褪せてきているように思います。

私自身も最近『ロータリーって何？』と思うようになり、新しい会員にとっても“ロータリーの魅力”が肌で感じられなくなってきたのではないかと思います。思い切って、伝統的なロータリーの色を強調する方向に、日本のロータリーの“ガラパゴス化”に、舵を切ってみてはどうでしょうか。

◇おわりに

最近は地区、分区そしてクラブ内でもロータリーを話し合う機会が少なくなっています．私どものクラブでも久し振りに２月 23 日の『ロータリー創立記念日』に因んで、ロータリーの基本「職業奉仕」を取り上げました。本稿はそのサマリーで、“わかり易く”を心がけましたが、もともと哲学的なお話なので、理論立ててお話しするのは難しく、ロータリアンのなかにも「職業奉仕って分かりづらいよね」という声もよく聴かれます。

ロータリーは宗教ではなく、ロータリーの奉仕の基本は“人のためになろうとする気持ち”であり、その精神は古今東西、和洋を問わず“人間の普遍的気持ち”であるということをポール・ハリス、道元禅師、近江商人を例にとってお話しました。

比較文化人類学者の梅棹忠夫先生は彼の著書の中で「英国と日本は大陸を挟んで遠く離れているが、文化の交流は全くなかったにもかかわらず、人間の営み、社会の発達過程は同じ、“パラレル”で、両国とも同じ時期に封建社会があり、エンブレムと家紋、騎士道と武士道がある.」と述べています。

私が、英国人の英会話の先生から言われた“ People are people everywhere. ”を終わりの言葉にします。